

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまりⅠ		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村報告日	令和5年 1月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設にいても、地域の方々との交流を続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切に、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでおります。

ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では「笑顔で信頼関係」を築き、「その人らしい生活」を送りながら「家族や地域との結びつき」を大切にされたケアが行われています。今年度は、理念に繋がる認知症ケアとして「ユマニチュード」を学ぶ取組みがなされ、思いを学び、職員の振り返りの機会も作られていました。コロナ禍でありながらも「地域密着であるから」と地域清掃や活動には他事業所や役員も参加し、法人全体で地域との関わり作りが取組む様子が聞かれました。入居者に対し、職員は「できることを支援する」ケアを実践しており、部屋掃除の手伝い等、日常生活の中でできる範囲で関わるの時間を持ち過ごしている様子が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際に理念の唱和を行い、理念を共有し、理念を念頭に置いた日々のケアに努めている。	毎日の申し送りで理念の唱和を行っている。今年度は理念に繋がる認知症ケアとしてユマニチュードの勉強会を取入れ、勉強会も実施した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃作業への参加を行っている。また、毎年法人へ飾りつけされた七夕を地域の方が法人に飾りつけに来られている。近年は、コロナ禍で交流自体は減っている。	毎年地域では清掃作業等が行われており、今年度はコロナ禍で職員体制が厳しい状況であったことから、法人全体での取組みとして他事業所の職員や役員も参加した。コロナ禍でもあり、地域との行事等での交流は難しい状況であった。	地域の高齢化も進み、コロナ禍でもあるため、日常的な交流は難しい状況が続いています。コロナ禍が落ち着いた際には、地域と入居者を繋ぐ関わり作りの再開に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の地域サロンへの参加などを行い、認知症の啓発などを行っている。キャラバンメイトの活動は、コロナ感染予防の為、中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、6月の1回のみ開催。中止となった月は、行政への資料の提出を行っている。10月は、本体のクラスターの為、中止となった。	年6回開催を予定している運営推進会議は今年度はコロナ感染症レベルにより都度検討し、出来るだけ対面での実施に向け検討した。会議では地域・行政とも直接意見交換が出来るため、今後もできるだけ対面での実施を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中止などがあり、いつもは会議などを活用し報告・相談を行っていたが、今年度は、行政へ、資料の提出や電話・直接出向き相談など、連携を行っている。	通常、運営推進会議を通じて事業所の運営や取り組み状況等を報告し、意見交流も行っている。今年度は運営推進会議の開催が難しい時期もあったため、直接出向いての報告、コロナ対策での報告・相談等を重ねてきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や、身体拘束委員などでセンサーの検討などを行っている。また、5月より身体拘束を必要とするご利用者の方がいらっしやしたが、出来る限り拘束をしない取り組みの検討を行った。	奇数月開催の「身体拘束委員会」でセンサーマットの検討を行っている。拘束を行わないことを基本としているが、どうしても必要性が発生した際には、毎日の記録と共に本人のストレス軽減を目指し、時間や場面を決めて行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止とはについて学びの場、振り返りの場を設けた。また、暴力だけではなく、言葉使いについても申し送りの時間などを使い、周知を行った。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会にて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行うことが多く、契約の際にいろいろな話をし、ご家族の不安等を把握する様に努めている。入居後の相談など、面会時や電話で対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望は、リーダー会議の際や運営推進会議の際に報告を行っている。また、必要に応じて、運営会議での報告も行っている。	コロナ禍であることから面会の制限を余儀なくされる時期もあるが、できるだけ申し出は断らず家族と直接会って欲しいとの思いで支援している。家族来訪の際や電話連絡を機会に意見や要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状については、運営会議で報告を行っている。ひだまりからの要望なども報告を行っており、必要に応じて、法人で対応を行って頂いている。	管理者も業務に携わっていることから、職員は意見や提案を表す機会は日常的に持たれている。管理者も職員の様子により声掛けを行う等話す機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇の取得や、また、今年度より短時間の有給休暇(2時間)などを取り入れ、働きやすい環境整備に努めている。また、個別研修(CM更新研修)など、業務内での受講としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまりでの勉強会を職員主導で行い、また、法人内部研修など業務内に参加できる環境を整え受講の機会を増やしている。内部研修などは、Zoomで行う際は録画し、各部署で参加できない職員も見れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策の為、宇城地区のGH勉強会など集まって行う機会がなく、同業者との交流は少なくなったが、同法人での勉強会などへの参加で法人内での交流などは出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂いている。出来ない所の支援を行い、日常生活の不安を取り除き、安心して暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの状況に合わせて、面会制限の緩和を行い、出来るだけご本人を顔の見える状況を作れるように務めた。また、ご家族参加ができなかったため敬老会では、ご家族にメッセージを書いていただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数名の方にふるさと訪問を行ったり、春には、ドライブを企画し、自宅周辺まで行き喜ばれていた。 同法人のデイや特養ご利用者など、感染対策を行い会いに行った。	コロナ禍ではあるが、住み慣れた町を巡ったり自宅近くまでのドライブ等を行った。敷地内のデイや特養利用者にも知り合いもおられ、交流も続いている。家族との関係も大切にしており、面会方法を工夫して受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクの際や行事の際に交流を持てるようにした。また、自由に両ユニットを行き来される為制限せず見守りを行い対応をした		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた方に関しては、面会制限等がある為、会えないが、連携室などから近況を聞いたり、同法人内の施設にうつられた方は、会いに行ったりと継続した関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。	今年度はユマニチュードを学びケアに取り入れている。日頃から「できることを支援する」を実践したケアを行っており、日々の職員の寄り添いや会話の中で意向を確認しながら声掛けに工夫し、入居者の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い、体調の変化等の早期発見に努めている。また、変化に関して情報の共有を図り早期対応・ケアの変更などに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当者で実践シートを行い、ケア評価を行っている。ケアの検討など職員の意見を聞き、ご家族へ相談をしながら変更を行っている。	職員一人あたり一人から二人の入居者を持つ担当制で、毎月実践シートにより評価を行っている。担当者・作成担当者・ケアマネージャーにより年2回を基本とした計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にも、プランの内容や、細かなプラン変更などを記入し、ケアの必要事項をチェックすることで情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて、他施設へのサービスの意向や病院受診の付き添い等を行っている。また、訪問看護の利用を行い、医療面でも不安なく生活できるよう支援している。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のため、こちらから地域へ出向くことは難しかった。しかし、感染対策を行ったうえで、面会の制限緩和を行ったため、ご家族以外の方の面会等もご利用者の喜びとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行って頂きその際、情報の提供を行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。協力医からは月2回の訪問診療があり、他科・他医療機関受診の際には基本的に家族による通院を依頼している。敷地内に法人の訪問看護事業所があり、利用ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは、看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な判断が出来るようにしている。また、必要時は、訪問看護を利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院・ご家族と連絡を取り合い、早期の退院支援に努めている。また、入院中もご家族との連絡を取り合い、現在の状況やご家族の不安などを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する話を必ず行っている。また、必要時には、ご家族の意見を聞き看取りケアへつなげるケースもあった。また、今年度看取りケアを行った事例では、行政の協力なども得て看取りケアを行うことが出来た。	今年度は、本人の望まれるターミナルを目指し、他職種連携により住み慣れた所で最後までをテーマにターミナルの研修を行った。今年度もは訪問看護を利用しながら家族・医療機関と連携のもと看取りケアを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修で危険予知の勉強会やひだまりの勉強会で、緊急時の対応について学ぶ機会を作った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や備品の確認を行った。台風の前などは、懐中電灯だけではなく、ランタンなど必要物品の購入も行った。現在、BCPの作成を行っている。	避難訓練・防災学習・避難経路確認等を計画し行っている。BCP計画は現在法人全体で取組んでおり、事業所の作成を進めているところである。	

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度は、ユマニチュードの勉強会を取り入れるなどし、言葉かけなどの対応の振り返りや勉強会を行った。	年間研修により接遇・マナー研修を行い、介護の接遇マナーの心得4ポイントを学んだ。今年度は事業所全体でユマニチュードによる認知症ケアに取り組んでおり、言葉遣い等特に学びを重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のニーズをくみ取り、思いに寄り添うよう努めている。 また、日常の中での言葉かけで、出来るだけ、本人の意思決定が出来るような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪など施設に地元の理・美容師さんと呼び、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の献立に基づいて食事を提供している。ご飯・汁物のはひだまりで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いをして頂いている。イベント時はメニューを変更し対応をしている。	敷地内法人施設で作られた主・副菜に加え、頂き物等があれば事業所でも手作りの一品を添えている。入居者の状況によって異なるができるだけの手伝い等役割も継続している。時にはユニットそれぞれでホットプレートを使った料理等も入居者と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化に応じ、食事のチェックシートを活用し、把握に努めている。また、咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談をしながら対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。	出来るだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。自然な排泄のため、運動や水分も考えた取組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っているが、拒否があった場合は時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。	3日に1度を基本とし、1対1で入浴を支援している。同性介助の希望があれば対応する。2ユニットの片方に機械浴が配備されており、入居者の身体状況により心地よい入浴の提供を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がられるように努めている。また、日中も、昼寝や居室で自由に過ごされるよう個々の希望に添うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、個別の薬入れの中にあり、だれでも確認しやすいようにしている。また、薬を準備するお盆の上に、注意事項などを貼り間違いの無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や台拭き、一緒に調理をしたりと、個々の能力に合わせて作業を行うよう努めている。また、ご家族に協力を得て、菓子などの好まれる物を持参して頂いたり、毎月、合同レクでイベントを行い楽しみの提供につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染状況をみながらではあったが、ドライブで自宅近辺まで出かけた。初詣へ出かける事が出来た。 他科受診をされる方などは、途中でご家族と昼食を摂って来られることもあった。	コロナ禍ではあるが、散歩や、敷地内のデイサービス等事業所の訪問は日常的に行っている。家族との通院を機会とした外出、自宅周辺や町の名所へのドライブ等、入居者それぞれに対応した外出支援も行っている。	

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はいらっしゃらないが、必要な場合は、預かり金の中から支払いを行っている。園外活動が無かったため、自分で支払う状況が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話が入り、本人とお話しされる場合は、ユニット内の電話を使い話されている。手紙は、毎年、写真入りの年賀状と、ご本人が可能な場合は名前などを書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには十分配慮を行っている。室内のレイアウトは季節が感じられるものになっている。	共用空間で入居者が過ごす時間も多いいリビングには食卓の他ソファも置かれており、入居者それぞれ思い思いに好みの場所もありくつろげる空間である。動きや身体状況により見守りが必要な入居者には安全にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、自分のしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅にあるものを持参して頂き、馴染みの物がある空間にしている。レイアウトなども安全面を考慮しながら、ご家族と話し合うこともある。	入居前の馴染みの生活用品が持ち込まれた居室には家族の関わりも感じる。趣味の手芸品等、好みの物や見慣れた物は入居者の安心にもなり、心地よく過ごして頂くための工夫も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなどわかりやすい目印をつけ、理解できるように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまりⅡ		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村報告日	令和4年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設においても、地域の方々との交流を続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切に、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでおります。

ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際に理念の唱和を行い、理念を共有し、理念を念頭に置いた日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃作業への参加を行っている。また、毎年法人へ飾りつけされた七夕を地域の方が法人に飾りつけに来られている。近年は、コロナ禍で交流自体は減っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の地域サロンへの参加などを行い、認知症の啓発などを行っている。キャラバンメイトの活動は、コロナ感染予防の為、中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、6月の1回のみ開催。中止となった月は、行政への資料の提出を行っている。10月は、本体のクラスターの為、中止となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中止などがあり、いつもは会議などを活用し報告・相談を行っていたが、今年度は、行政へ、資料の提出や電話・直接出向き相談など、連携を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や、身体拘束委員などでセンサーの検討などを行っている。また、5月より身体拘束を必要とするご利用者の方がいらっしやっしたが、出来る限り拘束をしない取り組みの検討を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待防止とはについて学びの場、振り返りの場を設けた。また、暴力だけではなく、言葉使いについても申し送りの時間などを使い、周知を行った。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会にて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行うことが多く、契約の際にいろいろな話をし、ご家族の不安等を把握する様に努めている。入居後の相談など、面会時や電話で対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望は、リーダー会議の際や運営推進会議の際に報告を行っている。また、必要に応じて、運営会議での報告も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状については、運営会議で報告を行っている。ひだまりからの要望なども報告を行っており、必要に応じて、法人で対応を行って頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇の取得や、また、今年度より短時間の有給休暇(2時間)などを取り入れ、働きやすい環境整備に努めている。また、個別研修(CM更新研修)など、業務内での受講としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまりでの勉強会を職員主導で行い、また、法人内部研修など業務内に参加できる環境を整え受講の機会を増やしている。内部研修などは、Zoomで行う際は録画し、各部署で参加できない職員も見れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策の為、宇城地区のGH勉強会など集まって行う機会がなく、同業者との交流は少なくなったが、同法人での勉強会などへの参加で法人内での交流などは出ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂いている。出来ない所の支援を行い、日常生活の不安を取り除き、安心して暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの状況に合わせて、面会制限の緩和を行い、出来るだけご本人を顔の見える状況を作れるように務めた。また、ご家族参加ができなかったため敬老会では、ご家族にメッセージを書いていただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数名の方にふるさと訪問を行ったり、春には、ドライブを企画し、自宅周辺まで行き喜ばれていた。 同法人のデイや特養ご利用者など、感染対策を行い会いに行った。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクの際や行事の際に交流を持てるようにした。また、自由に両ユニットを行き来される為制限せず見守りを行い対応をした		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた方に関しては、面会制限等がある為、会えないが、連携室などから近況を聞いたり、同法人内の施設にうつられた方は、会いに行ったりと継続した関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い、体調の変化等の早期発見に努めている。また、変化に関して情報の共有を図り早期対応・ケアの変更などに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当者で実践シートを行い、ケア評価を行っている。ケアの検討など職員の意見を聞き、ご家族へ相談をしながら変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にも、プランの内容や、細かなプラン変更などを記入し、ケアの必要事項をチェックすることで情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて、他施設へのサービスの意向や病院受診の付き添い等を行っている。また、訪問看護の利用を行い、医療面でも不安なく生活できるよう支援している。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のため、こちらから地域へ出向くことは難しかった。しかし、感染対策を行ったうえで、面会の制限緩和を行ったため、ご家族以外の方の面会等もありご利用者の喜びとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行って頂きその際、情報の提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは、看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な判断が出来るようにしている。また、必要時は、訪問看護を利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院・ご家族と連絡を取り合い、早期の退院支援に努めている。また、入院中もご家族との連絡を取り合い、現在の状況やご家族の不安などを聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに関する話を必ず行っている。また、必要時には、ご家族の意見を聞き看取りケアへつなげるケースもあった。また、今年度看取りケアを行った事例では、行政の協力なども得て看取りケアを行うことが出来た。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修で危険予知の勉強会やひだまりの勉強会で、緊急時の対応について学ぶ機会を作った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や備品の確認を行った。台風の前などは、懐中電灯だけではなく、ランタンなど必要物品の購入も行った。現在、BCPの作成を行っている。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度は、ユマニチュードの勉強会を取り入れるなどし、言葉かけなどの対応の振り返りや勉強会を行った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人のニーズをくみ取り、思いに寄り添うよう努めている。 また、日常の中での言葉かけで、出来るだけ、本人の意思決定が出来るような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪など施設に地元の理・美容師さん呼び、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の献立に基づいて食事を提供している。ご飯・汁物のはひだまりで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いをして頂いている。イベント時はメニューを変更し対応をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化に応じ、食事のチェックシートを活用し、把握に努めている。また、咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談をしながら対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っているが、拒否があった場合は時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がられるように努めている。また、日中も、昼寝や居室で自由に過ごされるよう個々の希望に添うように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、個別の薬入れの中にあり、だれでも確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や台拭き、一緒に調理をしたりと、個々の能力に合わせて作業を行うよう努めている。また、ご家族に協力を得て、菓子などの好まれる物を持参して頂いたり、毎月、合同レクでイベントを行い楽しみの提供につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況をみながらではあったが、ドライブで自宅近辺まで出かけたり、初詣へ出かける事が出来た。 また、全員ではないが、ご家族の協力を得て、ふるさと訪問をすることが出来た。		

グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はいらっしゃるが、必要な場合は、預かり金の中から支払いを行っている。園外活動が無かったため、自分で支払う状況が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話が入り、本人とお話しされる場合は、ユニット内の電話を使い話されている。 また、定期的にご家族へ電話をかけられる方もいらっしゃる。毎年、年賀状の作成を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには十分配慮を行っている。 室内のレイアウトは季節が感じられるものになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、自分のしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅にあるものを持参して頂き、馴染みの物がある空間にしている。レイアウトなども安全面を考慮しながら、ご家族と話し合うこともある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなどわかりやすい目印をつけ、理解できるように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホームひだまり

作成日 令和5年1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で、地域へ出向く機会がなく、交流が少ない。	コロナ禍ではあるが、流行などを見ながら、個別にでも、慣れ親しんだ地域へ出向いていく。	個別に、故郷訪問などの実施する。	12か月
2	2	コロナ禍で、地域へ出向く機会がなく、交流が少ない。	コロナ禍ではあるが、流行などを見ながら、個別にでも、慣れ親しんだ地域へ出向いていく。	感染対策を行いながら、ボランティアの受け入れなどを行い交流に場を設ける。また、地域へ出向いていく。	12か月
3	4	コロナ流行で、運営推進委員会の中止が続いている。	感染対策を行いながら、意見交換の場を設けていきたい。	定期的な運営推進会議の開催を目指す。	12か月
4	35	災害対策また、感染症対策を行う上で、BCPの作成を行う。	法人全体のBCP作成を行い、それに沿って、ひだまりのBCP作成を行う。	法人全体と共に、ひだまりでのBCPを作成し、災害又は、感染症発生時の対応に備える。	12か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。